

京都大学	博士 (医学)	氏 名	後藤 (加藤) 恵美子
論文題目	Gynecological aspects as a component of comprehensive geriatric assessment: A study of self-rated symptoms of pelvic organ prolapse among community-dwelling elderly women in Japan (高齢者総合機能評価項目としての婦人科的側面：日本の地域在住高齢女性を対象とした骨盤臓器脱の自覚的症候群に関する研究)		
<p>(論文内容の要旨)</p> <p><b>【背景・目的】</b>世界的に高齢化社会が急速に進んでおり、高齢者の健康管理はますます重要になっている。総合的高齢者機能評価(CGA)は、高齢者の医学的、心理社会的、機能的な能力を評価するために、老年医学分野で日常的に用いられている。一方、老年医学の性差に関する研究では、女性は男性よりも長生きするが、障害や併存疾患が多い傾向があるという「male female health survival paradox」という現象が報告されている。しかし、老年医学の分野ではCGAの構成要素のうち、女性特有の症状に焦点を当てたものは少ない。よって、本研究では、高齢女性における婦人科的要因の影響を調べるために、産婦人科病歴、自己評価による骨盤臓器脱(POP)に関連する症状とCGAとの関連を調べた。</p> <p><b>【方法】</b>対象は、高知県土佐町在住の75歳以上の高齢女性で、2017年度にご長寿健診を受診した165名のうち、本研究参加の同意が得られた164名である。6項目の自記式質問紙であるPOPDI-6を骨盤臓器脱に関連する自覚的症候群として用いた。CGAとしてBasic ADL、Timed up and go test (TUG test)、歩行速度、FRI-5、老研式活動能力指標、MMSE、抑うつスコア、主観的健康感、主観的幸福度、主観的経済満足度をVisual analog scaledを用いて評価した。参加者をPOPDI-6 &gt;0(症状がある群)とPOPDI-6 =0(症状がない群)に二分し、CGA項目を比較した。また、POPDI-6とTimed up and go test、Basic ADLの関連をそれぞれ多重ロジスティック回帰分析で解析した。有意水準は5%未満とした。</p> <p><b>【結果】</b>POPの自覚症状がない群(POPDI-6=0)と比較して、症状のある群(POPDI-6&gt;0)では、Timed up and go testの時間が13.5秒以上である割合が有意に多く(P = 0.024)、Basic ADLスコアが21未満である割合が有意に多く(P = 0.02)、また、主観的健康感が低い割合も有意に多かった(P = 0.004)。多重ロジスティック回帰分析では、Basic ADLスコア&lt;21(オッズ比[OR]=2.78)およびTimed up and go test時間≥13.5秒(OR=3.45)がPOPDI-6&gt;0と有意に関連していた。</p> <p><b>【考察】</b>POPDI-6を用いて、POPに関連する自覚症状を評価したところ、身体機能低下の予測因子であるTime up and go testの低下、Basic ADL低下(特に下肢機能)が有意に関連した。よって、POPに関連する自覚的症候群が、高齢者の身体機能低下(特に下肢機能)と関連がある可能性があった。婦人科的視点を踏まえたCGA評価は、高齢女性のQOL、健康の維持に寄与できる可能性があるといえる。また、本研究は横断研究であるため因果関係は証明できないが、更なる研究にて因果関係が確認できれば、POPの治療が高齢者の下肢機能改善に役に立つなどの、新たな介護予防のアプローチができる可能性がある。</p> <p><b>【結論】</b>地域在住の高齢女性においてPOPに関連する自覚的症候群はCGA項目と関連していた。CGAの一環としてPOPに関連する自覚的症候群を評価することは、高齢女性の身体的・心理的健康を向上させるために有意義である可能性がある。</p>			

(論文審査の結果の要旨)

高齢者を多角的に評価する総合的高齢者機能評価(CGA)は、老年医学分野で用いられているが、女性特有の症状に関する項目は少ない。本研究では高齢女性における婦人科的要因の影響を調査する目的で、骨盤臓器脱(POP)の自覚的症候群とCGAとの関連を調査した。対象は、高知県土佐町在住の75歳以上の高齢女性で、2017年度にご長寿健診を受診し、本研究へ参加した164名とした。6項目自記式質問紙のPOPDI-6をPOP自覚的症候群として用いた。CGAとしてBADL、Timed up and go test (TUG test)、歩行速度、FRI-5、老研式活動能力指標、MMSE、抑うつスコア、主観的健康感、主観的幸福度、主観的経済満足度を評価した。POPDI-6 >0群とPOPDI-6 =0群にてCGAの2群比較を行い、さらにTUG test、BADLの関連をそれぞれ多重ロジスティック回帰分析で解析した。解析の結果、POPDI-6>0群で、TUG test、BADLが有意に悪く、BADL<21(オッズ比[OR]=2.78)、TUG test≥13.5秒(OR=3.45)がPOPDI-6>0と有意に関連していた。POPに関連する自覚的症候群が、高齢者の身体機能低下(特に下肢機能)と関連があった。CGAとしてPOP自覚的症候群を評価することは、高齢女性の身体的健康維持に有意義である可能性がある。

以上の研究は地域在住高齢女性の健康維持に貢献し老年医学に寄与するところが多い。したがって、本論文は博士(医学)の学位論文として価値あるものと認める。

なお、本学位授与申請者は、令和4年2月25日実施の論文内容とそれに関連した試問を受け、合格と認められたものである。

要旨公開可能日： 年 月 日以降